

2022. 4. 25

発行: 桜本保育園

044(288)2545

えんだよい 4がつごう



にゅうえん・しんきゅう おめでとうございます

今年度は 新入園児は 3名
3名でした。新しくできた教会の
礼拝堂で 入園のつどいを 行いました。

0・1クラス 9名 早稲花クラス 16名 幼児
クラス 58名 amigo 8名で スタートしていま
す。3月から 新しいお部屋での 生活を 始めてい
たため 4月になっても どのクラスも 落ち着いて
新しい先生と 自分たちのペースで 過ごしていま
す。



毎年 早稲花から 幼児さんになると こどもの
人数の多さと 職員の数の 少なさに ほごしゃの
皆さんが 心配に なります。いつもなら 2月・3月
に 保護者懇談会などで ゆっくり 幼児の生活など
お話しするのですが ことは それもできていなく
て なんて こんなに少ないのと 不安に思っていま
すよね。まして 3月末に たくさんの職員が退職し
たので もっと 不安ですよね。

1歳児・2歳児は こども6人に 保育士がひとりで
す。なので 早稲花は 3人 保育士がいました。
ところが 3歳児になると 20人に ひとりに なり
ます。大違いですね。これでは 子どもたち ひとり
ひとりの声が 保育士に 届きません。そのため
桜本では パートの皆さんや 保育補助の皆さんの
力を借りて 幼児クラスには 6人以上の おとなが
一緒に 過ごすように しています。

一日でも早く 保護者のみなさんが 安心してもら
える保育園に なるように がんばります。

こんねんども よろしくおねがいいたします。(Y)

4月のよてい

1日 入園のつどい

18日 イースター礼拝

20日 園児健診 (0・1・2歳児)

23日 クラスこんだん会

28日 へんむ たまがわさんぽ

5月のよてい

11日 家族の白礼拝

12・19日 へんむ たまがわさんぽ

18日 園児健診 (0・1・3歳児)

27日 ひとみざ 人形劇

にゅーす あるりむ ぱりた

News・おしらせ・알림・balita

○あたらしい職員です。

よろしく
おねがいします



○退職しました。

お世話になりま
した。



○あたらしい教会が できました。

1・2階は 青丘社の事業 3・4階が礼拝堂
になっています。トラチの会のハルモニたちが
保育園を 使わなくなるのが 寂しいので こ
どもたちが 遊びに 行くように したいと お
もいます。礼拝堂は ほっとできる 空間で
す。よかったら どうぞ!

「つながって生きる」

「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。」(ヨハネの手紙一 4:11)

4月になり新しい年度が始まりました。何かが新しく始まる時というのは何かとドキドキするものです。時には不安な気持ちになることもあるかもしれません。そして同時に新しい事にチャレンジするチャンスであり、人との出会いの時でもあると思います。

子どもも大人も不安になった時、そばに寄り添って一緒にいてくれる人がいるとほっとしますし、一歩前に進む勇気が出ます。人に出会い「つながって生きる」ことの大切さを考えさせられます。

キリスト教保育では、聖書に基づいて、「子どもも大人も神によって創造され、いのちを与えられた、一人ひとりがかけがえのない存在であり、神の恵みの中で生かされ」生きるものであると考えられています。またキリスト教保育の目的は「神に愛されている自分を知り、神の愛に応答して生きる者となると共に、他者もまた、神に愛される存在であることに気づき、良き隣人として生活できるようになること」です」とあります。(『キリスト教保育』より)

桜本保育園の初代園長である故李仁夏牧師は、著書『歴史の狭間を生きる』に、『共生』ということが、今でこそ当然なこととして語られるが、違いをあるがままに受け止め合うことこそが豊かな社会をつくることができる、という夢が生まれた。それを支える聖書の言葉、神を畏れるからこそ、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ』(マタイ 19:19、口語訳聖書)が、園のモットーとなった」と、当時を振り返っています。

「乳幼児期は、人間の生涯の基礎が形成される時期で、この時期に培われたものが生涯の生き方の基盤となる」と言われています。つまり、この時期にわたしたちはみな神の愛に、人の愛に、自然に、そしてまわりの環境につながっていることを知り、ありのままを受け止められる力が養われるのです。「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです」とあるように、一人ひとりが、互いに神に愛され、生かされ、生きる者として、つながって生きる時に、誰もが平和に、平安のうちに日々過ごすことができると信じ、歩む者でありたいと願っております。

(チャプレン 鄭富京)

